

海外現地法人の動向（要旨）

海外現地法人四半期調査（平成 19 年 4-6 月期）

平成 19 年 9 月 27 日
調査統計部企業統計室

～ 平成 19 年 10-12 月期の先行き DI、平成 19 年 4-6 月期の実績 ～
＜今回調査のポイント＞

売 上 高

○先行きDIはプラス幅をやや縮小するも、高い景況感を持続

現状判断DIはプラス幅を拡大。先行きDIは、アジア地域でプラス幅を縮小したことからプラス幅をやや縮小したものの、すべての地域で2桁台の水準にあり、高い景況感を持続。

○実績は前年同期比 10.5%増と、7期ぶりに2桁台の増加

業種別では、輸送機械は伸びを高め、3期連続2桁台の増加。化学も伸びを高め、2期連続2桁台の増加。一般機械は引き続き2桁台の増加。鉄鋼及び電気機械は引き続き1桁台の増加。

地域別では、欧州は一般機械及び輸送機械の大幅な増加などから伸びを高め、3期連続2桁台の増加。アジア地域は、中国、ASEAN4、NIEs3 とともに伸びを高め、大幅に増加。北米は4年ぶりにわずかに減少。

設 備 投 資

○先行きDIはプラス幅を縮小するも、すべての地域でプラス水準を持続

現状判断DIはプラス幅を拡大。先行きDIは、すべての地域でプラス幅を縮小し、プラス幅を縮小したものの、すべての地域でプラス水準を持続。

○実績は前年同期比▲11.9%減と、5期ぶりに減少

業種別では、化学は欧州、米国、アジア地域とも減少し、大幅な減少に転じた。鉄鋼及び電気機械も大幅な減少に転じ、輸送機械はアジア地域の大幅な減少などから2期連続減少。一般機械は3期連続2桁台の増加となるも、北米の減少などから伸び率は低下。

地域別では、アジア地域が ASEAN4、NIEs3、中国とも輸送機械を中心に大幅に減少し、20期ぶりに減少。欧州は2桁台の減少に転じた。北米は2期連続増加。

従 業 者 数

○先行きDIはプラス幅をやや縮小するも、すべての地域でプラス水準を持続

現状判断DIはプラス幅をわずかに拡大。先行きDIはプラス幅をやや縮小したものの、すべての地域でプラス水準を持続。中国は引き続き2桁台のプラス水準。

○実績は前年同期比 3.5%増と、引き続き増加

業種別では輸送機械を、地域別では中国を中心として、引き続き増加。

調査時点：平成 19 年 8 月中旬

1. 売上高

先行きDI*1 は 19.9%ポイントと、プラス幅をやや縮小するも引き続き高水準。実績は前年同期比 10.5%増と7期ぶりに2桁台の増加。

- **現状判断D I** (19年7-9月)は21.4%ポイントと、前期現状判断D I (19年4-6月)に比べ1.5%ポイントプラス幅を拡大。アジア地域は、ASEAN4*2、NIEs3*3、中国*4ともプラス幅を拡大し、プラス幅を拡大。北米は、輸送機械が大幅にプラス幅を縮小したことからプラス幅を縮小したものの、2桁台の水準を維持。欧州は、輸送機械がマイナス水準に転じたことなどにより、マイナス水準に転じた。

先行きD I (19年10-12月)は19.9%ポイントと、今期現状判断D Iに比べ▲1.5%ポイントプラス幅を縮小。アジア地域は、すべての地域でプラス幅を縮小したものの、引き続き高水準。欧州は、輸送機械がプラスに転じ、電気機械及び一般機械がプラス幅を拡大し、プラス幅拡大。北米は、化学は大幅にプラス幅を縮小したが、輸送機械が大幅にプラス幅を拡大し、プラス幅をやや拡大。すべての地域で2桁台のプラス水準にあり、高い景況感を持続。

- **実績** (19年4-6月)は前年同期比10.5%増と、伸び率は緩やかに回復を続け、7期ぶりに2桁台の増加。

業種別では、輸送機械は、北米は微増、NIEs3は減少が続いたが、その他の地域は伸びを高め、3期連続2桁台の増加。化学は伸びを高め、2期連続2桁台の増加。一般機械は引き続き2桁台の増加。鉄鋼及び電気機械は引き続き1桁台の増加。

地域別では、欧州及びアジア地域は伸びを高め引き続き2桁台の増加となったが、北米は4年ぶりに減少。欧州(前年同期比19.4%増)は3期連続2桁台の増加。一般機械は建設機械を中心に大幅な増加を続け、輸送機械は伸びを高め大幅に増加。アジア地域(同15.0%増)はすべての主要業種及びすべての地域で増加し、大幅に増加。中国(同19.4%増)は2桁台の増加を持続し、伸び率は上昇。輸送機械及び化学は引き続き大幅に増加し、電気機械は6期連続1桁台の増加にとどまるも伸び率は回復。ASEAN4(同14.0%増)は2期連続2桁台の増加。輸送機械はインドネシアの大幅な増加などから伸びを高めた。NIEs3(同2.6%増)は4期連続減少の後、2期連続増加。化学が伸び率を上昇。輸送機械は台湾の不振から6期連続減少ながら、減少幅は縮小。北米(同▲0.1%減)は、1桁台の増加を続けた後、わずかに減少。一般機械は建設機械の不振などから2期連続減少し、電気機械は2期ぶりに減少。輸送機械は引き続き低い伸び。

注 *1：調査時点を含む四半期（現状判断）及びその翌四半期（先行き）に関し、前期と比較した見通し

・DI＝「増加と回答した企業の割合」－「減少と回答した企業の割合」

*2～4 ASEAN4：インドネシア、タイ、フィリピン、マレーシア NIEs3：シンガポール、台湾、大韓民国 中国：香港を含む

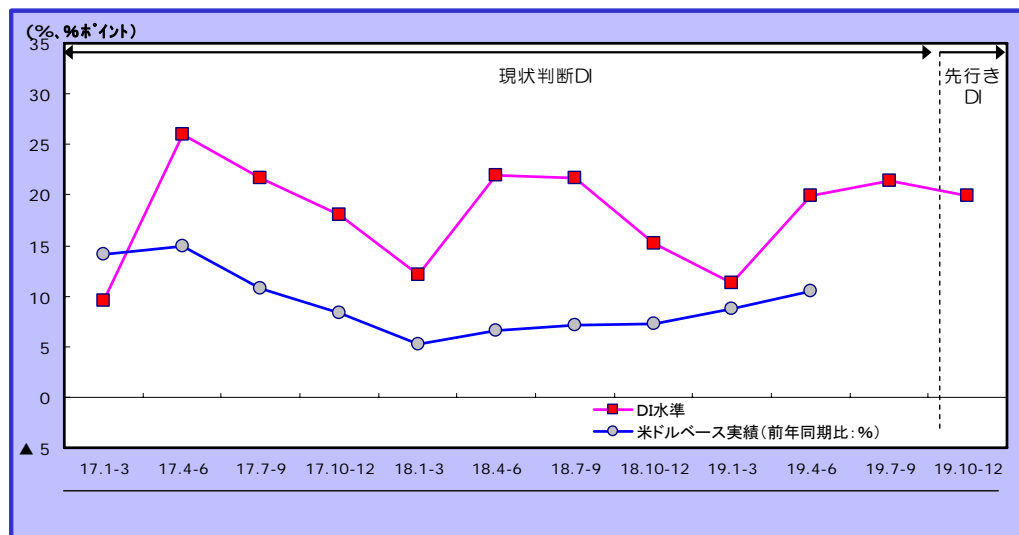
1表 売上高のD I 及び実績（地域・主要業種別）

	DI					実績	
	前期調査			前期比		前期	今期
	①現状判断 (19.4-6)	②現状判断 (19.7-9)	③先行き (19.10-12)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)		
計（地域・業種）	19.9	→ 21.4	→ 19.9	(1.5)	▲1.5	8.7	10.5
北米	16.0	→ 11.2	→ 12.4	(▲4.8)	1.2	0.9	▲0.1
アジア	22.8	→ 26.3	→ 21.6	(3.5)	▲4.7	11.6	15.0
ASEAN4	15.8	→ 21.4	→ 13.2	(5.6)	▲8.2	10.4	14.0
NIEs3	14.9	→ 19.3	→ 13.7	(4.4)	▲5.6	0.4	2.6
中国（香港含む）	30.7	→ 31.0	→ 28.7	(0.3)	▲2.3	15.3	19.4
欧州	6.2	→ ▲1.8	→ 20.2	(▲8.0)	22.0	15.9	19.4

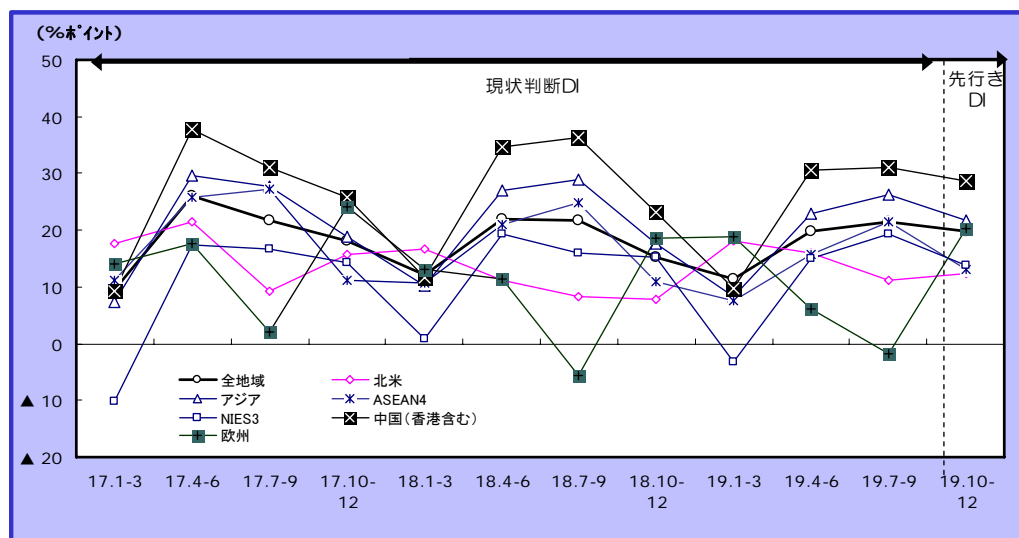
	DI					実績	
	前期調査			前期比		前期	今期
	①現状判断 (19.4-6)	②現状判断 (19.7-9)	③先行き (19.10-12)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)		
輸送機械	20.5	→ 15.0	→ 22.0	(▲5.5)	7.0	11.3	13.7
電気機械	10.7	→ 18.0	→ 11.4	(7.3)	▲6.6	3.3	0.7
一般機械	23.2	→ 26.5	→ 26.3	(3.3)	▲0.2	12.4	10.5
化学	27.2	→ 32.2	→ 27.3	(5.0)	▲4.9	10.2	12.5
鉄鋼	22.9	→ 26.4	→ 18.3	(3.5)	▲8.1	1.8	3.3

（単位：DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%）

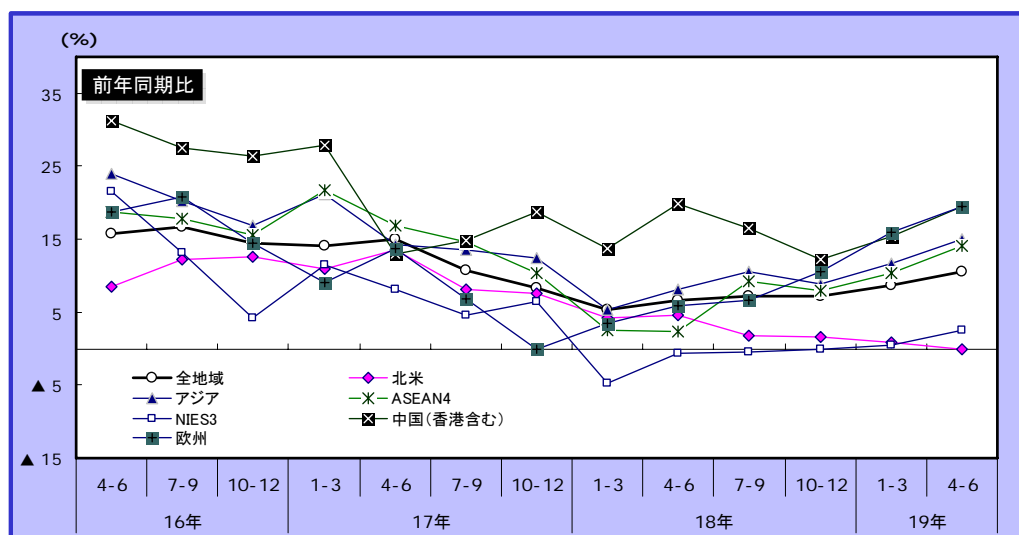
1 図 売上高のDI と実績（ドルベース）の推移



2 図 売上高D I の推移（地域別）



3 図 売上高実績（ドルベース）の推移（地域別）



2. 設備投資額(土地を除く有形固定資産取得額)

先行きDIは 12.4%ポイントと、プラス幅を縮小するもすべての地域でプラス水準を持続。実績は前年同期比▲11.9%減と5期ぶりに減少。

- **現状判断DI** (19年7-9月)は18.2%ポイントと、前期現状判断DI (19年4-6月)に比べ2.8%ポイントプラス幅拡大。電気機械及び輸送機械などがプラス幅を拡大。アジア地域は、輸送機械及び電気機械がプラス幅を拡大し、プラス幅拡大。欧州は、化学及び電気機械などのプラス幅拡大によりプラス幅を拡大。北米は、電気機械の大幅なプラス幅拡大などによりプラスを幅拡大。水準はすべての地域で2桁台のプラス。

先行きDI (19年10-12月)は12.4%ポイントと、今期現状判断DIに比べ▲5.8%ポイントプラス幅を縮小したものの、2桁台のプラス水準を持続。アジア地域は、輸送機械及び電気機械がプラス幅を縮小し、プラス幅縮小。欧州は、電気機械の大幅なプラス幅縮小などによりプラス幅を縮小。北米は、一般機械、電気機械及び輸送機械などのプラス幅縮小によりプラス幅を縮小。すべての地域でプラス水準を持続。

- **実績** (19年4-6月)は前年同期比▲11.9%減と5期ぶりに減少した。

業種別では、化学は3期連続2桁台の増加の後、欧州、北米、アジア地域とも減少し、大幅に減少。鉄鋼は減少に転じ、電気機械も欧州及びアジア地域の減少から大幅な減少に転じた。輸送機械は、アジア地域の大幅な減少などから2期連続減少し、減少幅を拡大。一般機械は3期連続2桁台の増加となったが、北米の減少などから伸び率は低下。

地域別では、アジア地域が20期ぶりに減少し、欧州は2桁台の減少に転じた。北米は2期連続増加。**アジア地域** (前年同期比▲16.2%減)は、ASEAN4、NIEs3、中国とも大幅な減少に転じた。輸送機械は2期連続2桁台の減少となり、鉄鋼、電気機械及び化学は2桁台の減少に転じた。**ASEAN4** (同▲24.6%減)は4年ぶりに減少。輸送機械がタイの減少などから2期連続大幅に減少し、電気機械は9期ぶりに減少。**NIEs3** (同▲17.2%減)は4期ぶりに減少。輸送機械は台湾の減少などから4期連続で大幅に減少し、一般機械も4期連続減少。電気機械及び化学は減少に転じた。**中国** (同▲16.8%減)は4期ぶりに減少。輸送機械は約3年ぶりに減少し、化学及び一般機械は減少に転じた。電気機械は2期連続減少。**欧州** (同▲14.9%減)は4期ぶりに減少。化学は3期連続大幅に減少し、減少幅を拡大。電気機械は大幅な減少に転じた。**北米** (同5.7%増)は、化学及び一般機械が大幅な減少に転じたことなどから伸び率は低下したものの、2期連続増加。輸送機械は伸び率は低下ながらも2期連続増加。

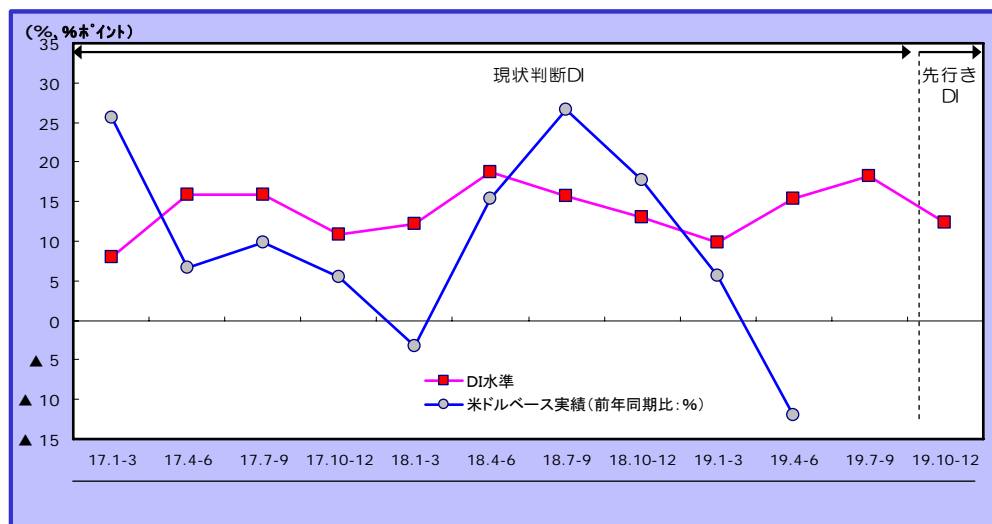
2表 設備投資額のDI及び実績(地域・主要業種別)

(単位：DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%)

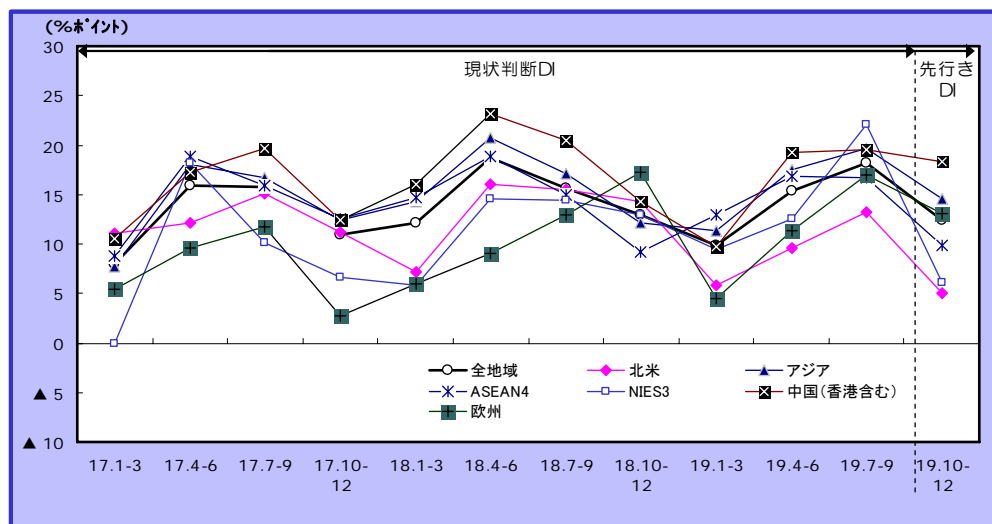
	DI					実績 (前年同期比)			
	前期調査			今 期 調 査		前期比		実績 (前年同期比)	
	①現状判断 (19.4-6)	②現状判断 (19.7-9)	③先行き (19.10-12)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	前期 (19.1-3)	今期 (19.4-6)	前期 (19.1-3)	今期 (19.4-6)
計（地域・業種）	15.4	→ 18.2	→ 12.4	(2.8)	▲ 5.8	5.6	▲ 11.9		
北米	9.6	→ 13.2	→ 5.1	(3.6)	▲ 8.1	14.1	5.7		
アジア	17.5	→ 19.7	→ 14.5	(2.2)	▲ 5.2	4.7	▲ 16.2		
ASEAN4	16.9	→ 16.7	→ 9.8	(▲ 0.2)	▲ 6.9	2.9	▲ 24.6		
NIEs3	12.6	→ 22.1	→ 6.1	(9.5)	▲ 16.0	6.9	▲ 17.2		
中国（香港含む）	19.2	→ 19.5	→ 18.5	(0.3)	▲ 1.0	2.2	▲ 16.8		
欧州	11.3	→ 17.0	→ 13.1	(5.7)	▲ 3.9	20.6	▲ 14.9		

	DI					実績 (前年同期比)			
	前期調査			今 期 調 査		前期比		実績 (前年同期比)	
	①現状判断 (19.4-6)	②現状判断 (19.7-9)	③先行き (19.10-12)	現状判断 (②-①)	先行き (③-②)	前期 (19.1-3)	今期 (19.4-6)	前期 (19.1-3)	今期 (19.4-6)
輸送機械	16.1	→ 21.6	→ 10.3	(5.5)	▲ 11.3	▲ 0.4	▲ 10.3		
電気機械	9.9	→ 18.5	→ 7.2	(8.6)	▲ 11.3	10.6	▲ 16.1		
一般機械	15.5	→ 8.5	→ 12.8	(▲ 7.0)	4.3	38.3	13.7		
化学	13.5	→ 16.0	→ 16.2	(2.5)	0.2	28.3	▲ 45.2		
鉄鋼	25.5	→ 23.3	→ 26.2	(▲ 2.2)	2.9	5.9	▲ 21.9		

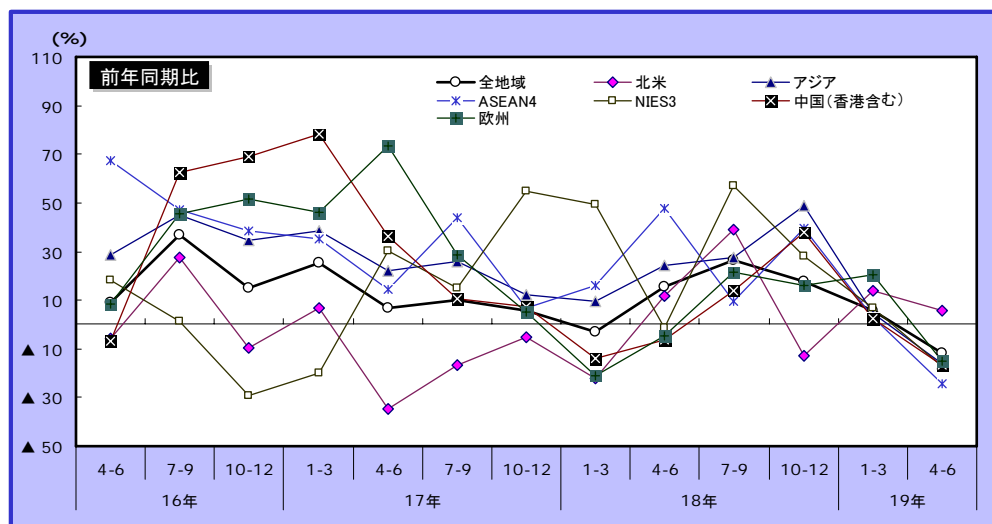
4 図 設備投資の DI と実績（ドルベース）の推移



5 図 設備投資DIの推移（地域別）



6 図 設備投資額実績（ドルベース）の推移（地域別）



3. 雇用(従業者数)

先行き DI は 8.5%ポイントと、プラス幅をやや縮小。実績は前年同期比 3.5%増と引き続き増加。

- 現状判断DI (19年7-9月)は10.1%ポイントと、前期現状判断DI (19年4-6月)に比べ0.5%ポイントプラス幅を拡大。欧州を除く地域でプラス幅を拡大。欧州は、輸送機械がマイナスに転じ、化学がマイナス幅を拡大したことによりマイナス水準に転じた。

先行きDI (19年10-12月)は8.5%ポイントと、今期現状判断DIに比べ▲1.6%ポイントプラス幅を縮小したものの、すべての地域でプラスの水準。中国は引き続き2桁台のプラス水準。

- 実績 (19年4-6月)は、前年同期比3.5%増と引き続き増加。

業種別では、輸送機械はNIEs3を除く地域の増加により引き続き増加。電気機械は中国を除く地域で減少し、2期連続減少。

地域別では、アジア地域は引き続き中国を中心に増加。欧州は大幅に増加し、北米も増加。欧州(前年同期比9.3%増)は大幅に伸び率が上昇。窯業・土石の著しい増加が寄与。輸送機械は引き続き堅調に増加。アジア地域(同3.4%増)は、伸び率は緩やかに低下しているものの、引き続き増加。中国(同5.3%増)は、4期連続で1桁台の増加。輸送機械は引き続き大幅に増加し、一般機械は2桁台の増加。電気機械は伸びが鈍化。ASEAN4(同0.1%増)はわずかながらも引き続き増加。電気機械は3期連続の減少。NIEs3(同▲1.3%減)は3期連続減少。輸送機械は5期連続減少し、電気機械は2期連続減少。北米(同0.6%増)は、2期連続小幅な増加。輸送機械は引き続き増加したが、電気機械及び一般機械は引き続き減少。

3表 従業者数のDI及び実績(地域・主要業種別)

(単位: DI及びDI前期比→%ポイント、実績(前年同期比)→%)

	DI					実績 (前年同期比)			DI					実績 (前年同期比)	
	前期調査		今 期 調 査		前期比	前期 (19.1-3)	今期 (19.4-6)		前期調査		今 期 調 査		前期比	前期 (19.1-3)	今期 (19.4-6)
	①現状判断 (19.4-6)	②現状判断 (19.7-9)	③先行き (19.10-12)	現状判断 (②・①)					先行き (③・②)	①現状判断 (19.4-6)	②現状判断 (19.7-9)	③先行き (19.10-12)			
計 (地域・業種)	9.6 →	10.1 →	8.5 (0.5)	▲1.6	3.4	3.5	輸送機械	14.3 →	14.5 →	16.2 (0.2)	1.7	13.1	9.9		
北米	8.5 →	8.9 →	8.2 (0.4)	▲0.7	1.1	0.6	電気機械	8.0 →	6.4 →	3.7 (▲1.6)	▲2.7	▲1.6	▲2.5		
アジア	11.2 →	12.4 →	10.3 (1.2)	▲2.1	4.0	3.4	一般機械	5.5 →	12.8 →	10.9 (7.3)	▲1.9	3.1	3.9		
ASEAN4	8.1 →	8.4 →	4.6 (0.3)	▲3.8	1.7	0.1	化学	10.3 →	8.1 →	6.9 (▲2.2)	▲1.2	0.9	1.5		
NIEs3	▲0.4 →	0.8 →	1.7 (1.2)	0.9	▲3.1	▲1.3	鉄鋼	13.5 →	19.4 →	15.2 (5.9)	▲4.2	15.6	2.1		
中国 (香港含む)	16.5 →	18.1 →	16.0 (1.6)	▲2.1	5.1	5.3									
欧州	0.7 →	▲0.7 →	0.7 (▲1.4)	1.4	0.3	9.3									

<参考> 海外経済

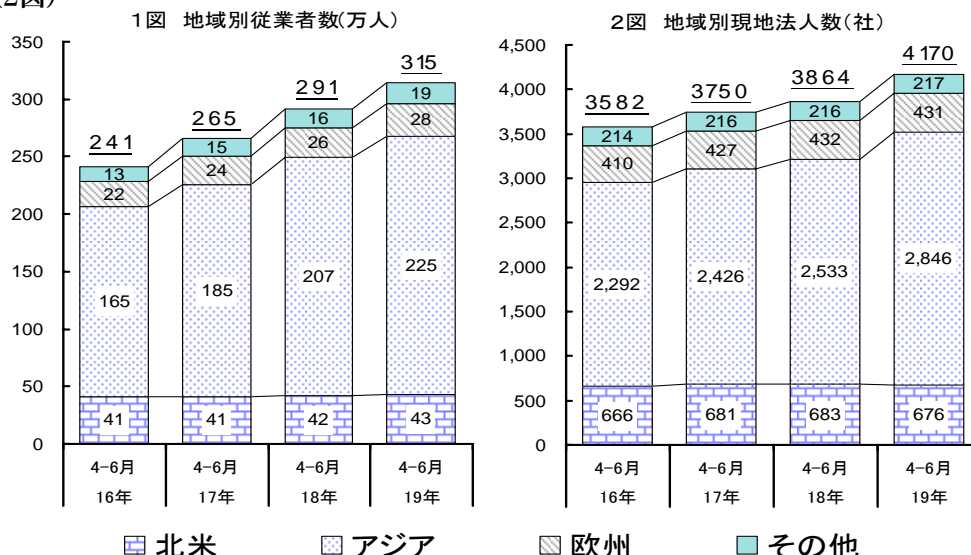
世界の景気は回復している。アメリカでは、住宅建設の減少等により、引き続き景気回復は緩やかなものとなっている。中国では、景気は拡大が続いている。固定資産投資は伸びが高まっている。シンガポール、マレーシアでは、景気は拡大している。韓国、台湾では、景気は緩やかに拡大している。タイでは、内需の停滞により景気は弱い動きとなっている。ユーロ圏及び英国では、景気は回復している。(月例経済報告(平成19年9月)より)

【トピックス】 日系製造企業の従業者数、アジアを中心に増加 -中国の増加が牽引-

平成19年4-6月期調査において、日系企業が有する製造業の海外現地法人^{※1}の従業者数は、平成16年4-6月期と比べ74万人増の315万人となった。現地法人数では、588社増の4170社となった。(1図)

(※1) 製造業であって、本社企業の直(間)接出資が50%以上、従業者数が50人以上を対象。

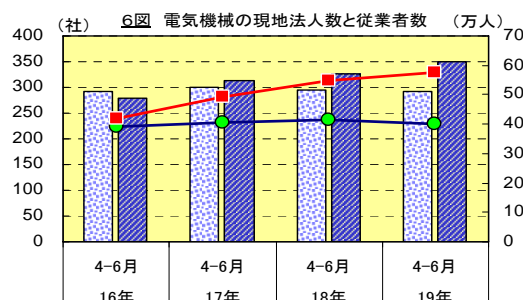
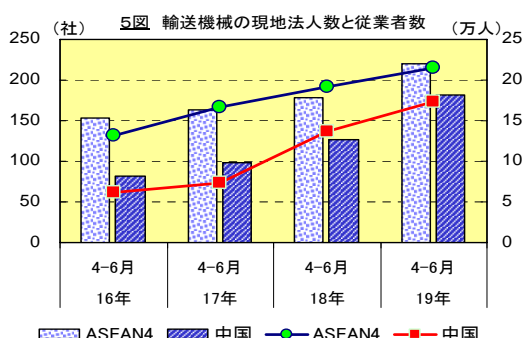
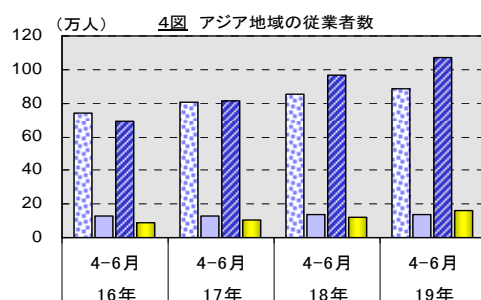
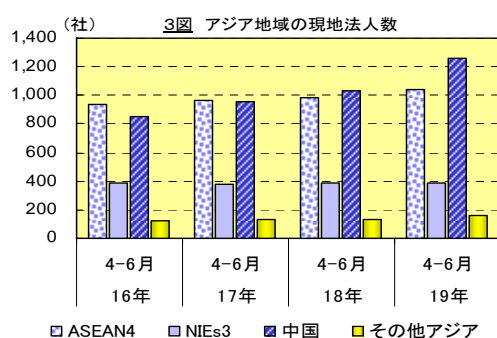
地域別にみると、従業者数は、アジアが60万人増と、全体の増加(74万人)の8割がアジアの増加となっている。現地法人数でも、アジアにおける増加が著しく、588社増のうち554社と、9割強を占めている。(2図)



アジアにおける現地法人数をみると、ASEAN4及び中国で、7割以上を占めており、従業者数では、実に87%前後を占めている。中国は、現地法人数は、平成18年4-6月期より、従業者数については、17年4-6月期より、ASEAN4を抜きアジア最大となっている。(3図、4図)

ASEAN4と中国の輸送機械及び電気機械についてみると、電気機械では、中国が現地法人数及び従業者数ともに最大となった。輸送機械では、現地法人数及び従業者数はASEAN4が最大を占めているものの、増加率では、中国が現地法人数では2.2倍^{※2}、従業者数では2.8倍と、ASEAN4(現地法人数1.4倍、従業者数1.6倍)を凌ぐ増加率となっている。(5図、6図)

(※2) 実数ベースで19年4-6月期を16年4-6月期を除した増加率



(※) 現従業者数は折れ線(右目盛)
現地法人数は棒線(左目盛)